

(要約版)

## 琉球列島における喫煙習俗の多角的研究

助成研究者 吉成直樹 (法政大学沖縄文化研究所、地理学・民族学)

共同研究者 石井龍太 (日本学術振興会特別研究員 P D (東京大学)、考古学)

### 1 目的

琉球弧は、伝統的に周辺地域のさまざまな文化を受容し、独自に発展させてきた歴史がある。喫煙文化もその例にもれず、東アジア世界にもたらされた初期の喫煙文化を最初に受容し、その後、中国をはじめとする琉球弧を取り巻く地域との交流の中で、多様で個性的な文化を育んできたと考えられる。

本研究は琉球弧を舞台に育まれた喫煙文化について、「喫煙文化史」および「喫煙文化誌」という二つの側面を描くことを目的とする。喫煙が受容された 16～17 世紀から現代にいたるまで、琉球・沖縄の社会において、喫煙文化がどのような歴史を歩んできたかを踏まえて、煙草が多様性を持ちながらどのように使用され、どのような役割を果たしてきたか、またどのような価値や象徴を担ってきたかについて多角的に明らかにしようとするものである。

### 2 方法

本研究では琉球諸島（奄美諸島～八重山諸島）の近世以降（およそ 17 世紀以降）を対象に、補完関係にある喫煙文化史と喫煙文化誌を明らかにするために、大きく二つの課題を設ける。

- ①考古学的方法を中心に、物質文化であるキセルに焦点を当て喫煙文化史を復元する。
- ②民俗（民族）学的方法を中心に、主に近世以降の支配者層から庶民層にいたるまでの喫煙習俗の実態を復元する。

まず①の課題を解決するために、発掘調査によって出土したキセル資料を分析する。さらに喫煙、煙草、キセルに関する文献史料を集成し駆使することによって、年代の定点を抑えつつ、喫煙の社会的位置づけとその展開について検討を加える。

次いで、②の課題を解決するために、野外調査資料、従来の報告書、文献史料などの分析・検討を通して、祭祀において煙草が持っていた役割とその使用法、「煙草の起源神話」にみる喫煙の意味、歌謡（ウタ）にみる喫煙をめぐる習俗について明らかにする。

### 3 結果と考察

史資料を分析・検討した結果、それぞれ次のような結論を得ることができた。

喫煙文化史については、次のように要約することができる。

まず喫煙は、琉球諸島には17世紀前半には伝播・普及していたと考えられる。琉球諸島ではキセルを使った喫煙が行われていたが、中でも無釉陶器製の特徴的なキセルが多く用いられている。また石製、施釉陶器製、金属製（銅、真鍮、銀など）、象牙製等、材質、形態ともに多様なキセルが自給あるいは輸入されていた。喫煙具から見れば、琉球諸島は独自色の強い特殊な地域であった。

喫煙は下賜、供応、薬用、葬制等、個人的な嗜好を越えて、また階層、地域を問わず琉球諸島の人々の生活の中で様々な役割を果たしていた。中でも輸入品である金属製キセルが副葬品として未使用のまま用いられる事例は興味深い。高級な未使用のキセルは、被葬者個人のためだけでなく先祖達への贈物として位置付けられていた可能性がある。

王府の喫煙政策を検討すれば、王府は当初喫煙を否定していたが、徐々に容認に転じ、やがて王府主導のもと煙草栽培が奨励されるようになる。これに対し庶民層は、喫煙習慣に親しみ続けながらも、しばしば喫煙に対し批判的なまなざしを向けることもあった。喫煙習慣は常に歓迎され広がり続けたわけではなく、その社会的位置付けは複雑かつ多様で、また変化し続けたと考えられる。

また、喫煙の文化誌については、次のように要約することができる。

琉球弧において、国家的祭祀から民間祭祀にいたるまで、神女たちが喫煙するという行為が祭祀の中に組み込まれていた。それは、神と一体化するための方法としての喫煙という意味を持ちながら浸透していたと考えられる。また、祭祀における喫煙の一部は、本来、シャーマニズムと結びついていた可能性がある。これらの祭祀における喫煙の役割は、煙草の起源神話で語られるように喫煙が精神に及ぼす作用 - 開放感、高揚感が得られるとする - と関係がある。

また、煙草の起源神話は熱帯地方に広く分布するハイヌウェレ型神話（作物死体化生神話）に結びついており、なぜ南方的な神話と結びつくかが問題として提起される。そもそも、16～17世紀頃に琉球弧に煙草が導入されたとすれば、なぜ、これほど新しい時代の作物に起源神話が存在するのかという問題が生じる。

ウタ（「煙草流れ」「琉歌」）によまれる喫煙を検討すると、キセルで煙草を吸うことが、男女関係、とくに男女の性的な関係に喩えられている場合があり、庶民の間では男女が一緒に喫煙することが、男女間の仲を深く結びつける役割を果たしていたと考えられる。

琉球弧における祭祀、ウタなどの民俗にみられる喫煙は、その多様性を捨象して要約すれば、人間と神、男と女の間という対立的なカテゴリーに属するものを一体化させる役割を担っていたとすることができる。